

**◆園の運営及び園務の遂行**

- 管理職と職員が信頼関係を築いて園務にあたっていることがわかる。
- 全体的に保護者の評価が高く、素晴らしい。半面、教職員の評価が低いのは、まだまだできるという向上心のあらわれか。
- 昨年度より、評価を下げた「研修の取り組み」や「教育目標や方針の説明」については、値が低いわけではないが、本年度の評価に置いて値が改善されることが望ましい。
- 教育目標が要覧、お便り、HPなどに分かりやすく示され、保護者への説明も十分になされている。
- 教育目標を教育課程に連携させ、学年ごとに具体的に示したことが、保護者にとっては、自分の子供の育ちを強く感じることができ、評価につながったのではないか。
- 園の安全に関しては、職員が危機感をもっていることがよくわかる。この評価をもとに、園の危機管理がさらに向上できるとよい。
- 防災時や日常生活を安全で快適に行えるような定期的な整備がなされている。
- 歴史ある園舎、広い園庭を限られた予算、またその時の状況などで対応していくことは非常に大変だと思うが、園全体の大きな環境整備に、大学の先生や学生に加え保護者や園児が加わって整備をしたとの報告があった。子供にとっては、さらに魅力ある園になったことと思う。安全を第一に考え、教職員も園児も安心して生活ができる場であってほしい。
- 大学との連携で遊具の開発や、美術系のユニークな活動が行われ、新規の取り組み（本の貸し出しなど）を行うことで、保護者の園内整備に対する評価も高くなっている。一方で、夢の城という幼稚園のシンボリックな遊具に関する評価は、保護者によって意見が分かれている。安全な使い方を学べた、挑戦ができたという意見があれば、滑り台などの使い方について安全性に不安を感じたり、子供が十分に遊具を使用できていない印象をもったりしている保護者もいることが課題であると見受けられる。
- PTAの一人一役により一人一人の負担が減る、活動に参加することで園への理解が進むという良い面もある一方、今後は働く保護者への配慮も必要だと思われる。
- PTA活動が活発であることは望ましい。現段階では保護者が「PTA活動に参加すること」に努力しているが、さらに「学校運営に参加する」という考えを共有できたら素晴らしい。「子供の最善の利益」を保護者、教職員、みんなで尊重し、守ることが教育だというように考えることだと思う。

**◆本園の保育**

- 評価の傾向を見ると、教職員が自分たちの教育を厳しく評価していることがわかる。値が低いわけではないため、園内の信頼関係を活かし、教職員と共に園内の保育がさらに充実できるとよい。
- 教職員の評価が低いのが、保育実践研究会をはじめ、様々な研究に取り組み、質の高い保育を追求し、それを実践しているように思う。
- 研究紀要からも幼児と教師がともに主体となる保育を目指し、対話的に子供たちと先生方が丁寧に関わっている様子がうかがえた。特に、子供のありのままの姿を先生がゆったりと受け入れている様子が印象的。保育に関しての保護者の意見も非常に肯定的で、日々より良い保育を目指していることと思われる。「かんじる」「かんがえる」は年齢が上がるごとに保護者の評価が上がっていて、3歳児段階ではとらえにくい「かんじる」「かんがえる」ということが年長児では3年間の育ちの成果として目に見えてわかるようになるのではないかと考えられる。
- 行事に子供たちの考えが取り入れられていることは素晴らしい。子供の権利条約には、子供の意見が尊重されなければならないことが明記されている。これは子供も大人と同じ人間であるという考えに基づいている。幼い時から一人の人間として尊重される体験を重ねることは人権尊重につながるので、すべての学年でこの取り組みを進めてほしい。
- 「対話的な学びに向う幼児の姿と教師の援助」の図は附属幼稚園の教育を理解してもらうのに有効だと思う。保護者は附属幼稚園の教育の考え方がわかりやすい。かつ、この視点で我が子の育ちを見ることができる。
- 気になる子への支援については、特別に支援を必要とするこの割合が年々増えている。教育学部附属幼稚園の強みを生かし、大学や関係機関と連携を取りながらその子にとっての大きな成長が望めるとよい。
- プライベートゾーンの話、ぬいぐるみ病院など保険に関する画期的な取り組みがなされている。保護者への

情動的教を十分に行うことが、安心感につながっているようだ。

#### ◆子育て支援

- 本年度の計画を保護者にも理解してもらおうと数値が上がると思う。新型コロナウイルス感染症対策による影響が予想される。
- 保護者の9割以上が満足しており、素晴らしい。担任をはじめ、園長・副園長・スクールカウンセラーなど、いろいろな人と話したり相談したりできるのは、保護者にとって安心できる環境。
- 公開講座やスクールカウンセラーの来園、保護者同士がつながるおしゃべり広場の開催などの取り組みにより、相談機能が充実していると思われる。一方で一時預かり、延長保育などの子育て支援の量的な取り組みについて、研究機関としての役割を果たしながらできる範囲で充実させていくことが期待される。
- 在園児の保護者への支援はよいと思うが、地域の子育て家庭の支援にも力を注ぐことを期待したい。イベント的なことでもよいが、日常的な活動（例えば子育て相談）を工夫してはどうか。

#### ◆国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命の達成

- 継続的に地域貢献等の社会的使命を果たし、千葉県の子育て支援においても協力してもらいたい。
- 「対話的な学びに向かう幼児の姿と教師の援助」の図を冊子に掲載するだけでなく、ホームページに公開すれば、地域への貢献にもなる。研究成果を地域の人が容易に知ることができるようにすることも、附属幼稚園と地域の関係を近いものにするには必要ではないか。
- 地域への貢献に関しては、公開講座もよいが、敷居を下げる取り組みを考えることも必要。附属幼稚園を身近に感じられる取り組みを工夫してはどうか。
- 評価を見ると、教職員の意識の高さが伺える。新型コロナウイルス感染症対策との兼ね合いもあるので、適切な計画変更が必要。
- 毎日忙しい中での研究への取り組みや研究会の開催、ソニー幼児教育支援優秀賞受賞など素晴らしい成果がたくさん出ている。国公立幼稚園・こども園職員は、附属幼稚園の先進的な取り組みをもとに、日々の保育や研究に取り組んでおり、十分に社会的使命を果たすことができている。
- 実習生の受け入れ数が一般の幼稚園に比して非常に多く、その指導を行うことで社会的使命を十分に達成していると思われる。また、各種研究会を定期的で開催しており、地域の研究園としての役割を十分に果たしている。研究紀要の作成にあたっては、先生同士が対話しながらもアセスメントを行うことで、保育の方針や子供についての共通理解が進み、子供と教師が主体となるという園の研究テーマにもつながる非常に有意義な取り組みをしている。今後は、従来までの保育とこれからの保育について、具体的に明示していくことが期待される。

＜資料＞自己評価報告書 千葉大学教育学部附属幼稚園

#### 1. 学校評価アンケートのまとめ

期日:2019年12月5日～12日 保護者数:全体140(3歳児:28、4歳児:56、5歳児:56) 教職員数:13 100%回収  
A:よく当てはまる B:だいたい当てはまる C:あまり当てはまらない D:当てはまらない

#### (1) 保護者アンケート

#### ◆園の運営及び園務の遂行

	A	B	C	D
園は教育目標や方針をわかりやすく説明していますか。	128(91%)	12(9%)	0(0%)	0(0%)
園内の安全や整備は十分ですか。	87(62%)	48(34%)	5(4%)	0(0%)
園の遊具・用具・図書などの整備は十分ですか。	95(68%)	43(31%)	2(1%)	0(0%)
園は事故や訓練など緊急事態発生時の対応を適切に行っていますか。	124(88%)	15(11%)	1(1%)	0(0%)
保護者の方は、PTA活動に参加しやすいですか。	78(56%)	59(42%)	3(2%)	0(0%)

- 教育目標や方針については、おたよりやホームページ、保護者会など、折に触れて説明してもらっていると高評価だった。例年2学期のふれあいの日（参観日）に保護者向けの研究発表を行っているが、今年度は、関附連が千葉大会であったことで、ふれあいの日が行えなかった。また、3学期のふれあいの日に研究発表を予定していたが、結局新型コロナウイルス感染症のために行えなかった。
- 施設・設備に関しては、老朽化についての指摘はあるものの、毎年少しずつ改修していること、整備していることについては認めてもらっている。一昨年度以来の工事で、屋根付きの通路を完成させたことへの評価は高かった。集会室前の地面が滑る、集会室の下駄箱の金具が危険などの指摘があった。
- 遊具に関しては、工学部のデザイン学科および保護者との協力によって改造した総合遊具「ゆめのしろ」に関して、子供自身に安全の対する感覚が身につけている、チャレンジできるのが良いといった評価が多かったが、同時に遊具そのものの安全性やメンテナンスを望む声があった。
- 今年度の大きな台風について、後片付けの迅速さを評価する声が多かった。しかし、その後園庭開放ができなかったことについては不満の声もあった。
- 避難訓練は様々な状況を考えて頻繁に行っており、子供たちも対応が身につけているという評価をもらった。
- PTA 活動は、少しではあるが、年々評価が高くなっている。「楽しく参加している」「良い人間関係の中で活動できた」という意見が多かったが「下の子がいる、仕事をしていると参加しにくい」などの意見もあった。「お互い様なのでできる人ががんばれば良い」という寛容さを示す保護者と平等さを求める保護者の両方がある。役員決めの時の十分な説明を求める声もあった。

#### ◆本園の保育

	A	B	C	D
園は園児が主体的に行動できるような環境を構成していますか。	123(88%)	17(12%)	0(0%)	0(0%)
教職員は教育課題(友達とのかかわり・生活習慣・規範意識)について意識して援助や指導を行っていますか。	115(83%)	22(16%)	1(1%)	0(0%)
教職員は幼児一人一人を理解し、その子にふさわしい援助や指導を行っていますか。	107(76%)	32(23%)	1(1%)	0(0%)
教職員は「うごく」子どもを育む保育をしていますか。	119(85%)	20(14%)	1(1%)	0(0%)
教職員は「かんじる」子どもを育む保育をしていますか。	107(76%)	33(24%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「かんがえる」子どもを育む保育をしていますか。	120(85%)	19(14%)	1(1%)	0(0%)
園は幼児の保健に関して家庭や医療機関と連携ができていますか。	118(85%)	20(14%)	2(1%)	0(0%)
園は日常の健康観察や疾病予防の取り組み・健康診断に関して適切に実施していますか。	122(87%)	17(12%)	1(1%)	0(0%)
園は園便り・学級便り・保護者会・ホームページ・降園時の連絡などで、園の様子をわかりやすく伝えていますか。	120(85%)	19(14%)	1(1%)	0(0%)

- 教育目標「うごく」「かんじる」「かんがえる」への理解や、それに対する園の取り組み、教師の援助などは高く評価されていた。
- 「対話を中心とした物事の進め方で主体性をもつ環境が整えられている」「手を差し伸べたり、促したりするだけでなく、時には自身の力でしっかり考えるように見守ってもらっている」「子供の成長過程に合わせ興味をもったことに関わる環境を作ってもらっている」など本園の保育を理解してくれる保護者が多かった。特に、アンケート調査の時期が年長発表会の直後だったこともあり、「発表会から子供たちの主体性を大切にしていることが伝わってきた」等子供の姿を通して保育を理解していただいているような意見が多く見られた。
- 保健に関しては「けがや体調不良に迅速に対応してくれる」「きちんと説明をもらえて安心」「手洗い・うがいの指導をきちんとしてくれる」「アレルギー対応が良い」「園で流行している病気を掲示板や手紙で知ることができ良い」など、評価が高かった。視力検査後の病院の紹介を望む声や、毎月の身長測定を望む声があった。
- ホームページやお便り、連絡については「楽しみにしている」「園の教育方針や予定、園での子供の様子がよくわかる」との意見が多かったが「もう少し詳しく幼稚園生活の様子を知りたい」という声もあった。

## ◆子育て支援

	A	B	C	D
園は公開講座・おしゃべり広場・保育参加などを通して子育てに関する相談や支援を行っていますか。	114(81%)	25(18%)	1(1%)	0(0%)
園は保護者から寄せられた意見・要望の対応や、子育てに関する相談や支援を行っていますか。	101(72%)	39(28%)	0(0%)	0(0%)

- 「スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家による相談や支援も行われていて充実している」「園の計らいで保護者同士の交流が多くもたれているので、話しやすい環境になっている」など、園全体が支援的な雰囲気をかもし出している点を認めている保護者が多かった。一方で、台風で園庭開放が中止になることが多かったため、担任の先生と話す機会が少なかったことをあげる保護者もいた。
- 園長や幼児教育教室の教授による公開講座も高評価だった。
- 保育参加は、「事後のフィードバックがあればいい」という意見があった。
- 園への要望に関しては、「保護者の声が届き反映される園、園と保護者が協力して子供を保育して環境が整っている」「学校評価に対して真摯に受け止め報告してくれる姿勢は評価できる」などという意見があった。

## ◆国立大学教員養成系学部附属学校園としての社会的使命の達成

	A	B	C	D
園は国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命(教育実習・公開研究会等)をもっていますか、有益な使命を果たしていると思いますか。	125(89%)	15(11%)	0(0%)	0(0%)
大学と連携することが幼稚園の運営や保育に生かされていると思いますか。	115(82%)	25(18%)	0(0%)	0(0%)

- 公開研究会の開催、教育実習生の受け入れ、公開講座を地域の方々にも開いていることなどにより、社会的な使命を果たしているという意見が多かった。今年度は保護者対象の研究発表ができなかったことから「研究結果が子供にどう影響しているかわかりやすく教えてほしい」という要望もあった。また、「研究助成が出るものにもっと積極的になるとよいのではないか」というアドバイスもあった。
- 大学との連携に関しては、工学部との連携で遊具を改造、設置したことから、積極的に行っていると感じた保護者が多かった。また、大学附属ならではの取り組みであることを認めた上で「もっと様々な機関と連携できる可能性があるのではないか」「どのような取り組みがあるのか、もっとアピールしてほしい」という声もあった。

## (2) 教職員アンケート

### ◆園の運営及び園務の遂行

	A	B	C	D
園では教育目標達成に向けた管理職のリーダーシップに職員が信頼をもって取り組んでいますか。	13(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)
園は教務・研究・教育実習等の校務分掌が適切に機能するように組織し運営していますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)
園は各教員の資質向上のための研修に組織的に取り組んでいますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)
園は教育目標や方針をわかりやすく説明していますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)
園内の安全や整備は十分ですか。	1(8%)	6(46%)	6(46%)	0(0%)
園の遊具・用具・図書などの整備は十分ですか。	3(23%)	10(77%)	0(0%)	0(0%)
園は事故や訓練など緊急事態発生時の対応を適切に行っていますか。	8(62%)	5(38%)	0(0%)	0(0%)
園は安全点検や安全対応能力の向上に関する取り組みを十分行っていますか。	4(31%)	9(69%)	0(0%)	0(0%)
保護者の方は、PTA活動に参加しやすいですか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)

- 園の運営については、「管理職が必要なアドバイスは指示しつつ、保育は担任に任せてくれるのがありがたい。互いの信頼関係によるものなので、みんなで良い職場環境作りに努めていきたい」など高評価だった。
- 園務分掌に関しては、職員数が少ない中でそれぞれの職員ができることをし、協力して園務をこなしていることをあげる職員が多かった。
- 研修については、もう少し非常勤職員も研修に参加できるようにしてほしいという意見があった。また「外部講

師を呼ぶ機会や他園を参観する機会などが多くあり良かった」という意見もあった。

- 教育目標や教育方針の説明に関しては、今回研究の中で目指す幼児像の見直しを行ったことから、もう一度きちんと説明する機会を持つ必要性を感じているという意見があった。また、保護者にきちんと説明をする必要性を感じている教員も見られた。
- 園内の安全に関しては老朽化がすすんでいることやハザードだと感じるところがあるなどという意見があげられた。また、台風後の倒木や高い樹木の整備の必要性もあげられていた。
- 遊具はここ数年で大きく改善された。それに伴って全体のゾーニングや安全確認を続けていく必要性を感じているという意見があった。用具や図書に関しては改善の必要性をあげる教員が多かった。
- 避難訓練に関しては、不審者対応訓練に対して「専門家の指導を受けたい」「もう一回程度増やしてもらいたい」という意見があった。保護者にもっと浸透するよう名努力が必要であるという意見もあった。また、緊急事態発生時（突然の病気やけが）に対しての訓練は実際に体を動かして行いたいという意見があった。

#### ◆本園の保育

	A	B	C	D
園は園児が主体的に行動できるような環境を構成していますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)
教職員は教育課題(友達のかかわり・生活習慣・規範意識)について意識して援助や指導を行っていますか。	8(62%)	5(38%)	0(0%)	0(0%)
教職員は幼児一人一人を理解し、その子にふさわしい援助や指導を行っていますか。	6(46%)	7(54%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「うごく」子どもを育む保育をしていますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「かんじる」子どもを育む保育をしていますか。	9(69%)	4(31%)	0(0%)	0(0%)
教職員は「かんがえる」子どもを育む保育をしていますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)
園は気になる子への支援を適切に行っていますか。	5(38%)	7(54%)	1(8%)	0(0%)
園は幼児の保健に関して家庭や医療機関と連携ができていますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)
園は日常の健康観察や疾病予防の取り組み・健康診断に関して適切に実施していますか。	10(77%)	3(23%)	0(0%)	0(0%)
園は園便り・学級便り・保護者会・ホームページ・降園時の連絡などで、園の様子をわかりやすく伝えていますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)

- 「園全体として幼児一人一人を理解しようとする意識はとても高い」というのがおおむねの意見であるが、その上で、「もっと質の高い保育を目指して努力したい」「教育目標に向けてより環境を整えたい」という個々の教員の意見が多かった。また、今年度は研究に教育課程の再編成ということが含まれていたため、いつも以上に教育課程をきちんと意識して保育を行うことができた教員が多かった。
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと共に、情報交換をしながら一人一人に適する支援をしようと努力しているが、人的な余裕がほしいという意見があった。
- 保健に関しては、「養護教諭が熱心に指導してくれている」という意見と共に、担任も勉強してクラスでもきちんと指導したいという意見があった。
- 情報の発信については、「もう少し頻繁に発信したかったが、忙しくてできなかった」という反省があった。

#### ◆子育て支援

	A	B	C	D
園は公開講座・おしゃべり広場・保育参加などを通して子育てに関する相談や支援を行っていますか。	9(69%)	4(31%)	0(0%)	0(0%)
園は保護者から寄せられた意見・要望の対応や、子育てに関する相談や支援を行っていますか。	7(54%)	6(46%)	0(0%)	0(0%)

- 在園児の家庭に向けての子育て支援はしているが、地域への支援があまりされていないのではないかと意見があった。

## ◆国立大学教員養成系学部附属学校園としての社会的使命の達成

	A	B	C	D
園は国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命(教育実習・公開研究会等)をもっていますが、有益な使命を果たしていると思いますか。	9(69%)	4(31%)	0(0%)	0(0%)
園は大学・各附属校との連携研究を通じて幼児教育の先進的研究を行っていると思いますか。	7(54%)	4(31%)	2(15%)	0(0%)
園は幼稚園教員養成課程学生等の教育実習、研究協力、授業協力を適切に行っていると思いますか。	11(85%)	2(15%)	0(0%)	0(0%)
園は公開研究会、他園や教育委員会への協力などを通して地域に貢献していると思いますか。	8(62%)	5(38%)	0(0%)	0(0%)
研究を通して自己の指導力が高められたと思いますか。	3(23%)	9(69%)	1(8%)	0(0%)
大学と連携することが幼稚園の運営や保育に生かされていると思いますか。	6(46%)	6(46%)	1(8%)	0(0%)

- 「公開研究会や国立政策研究所の教育課程指定校事業の研究、保育学会での発表、研究会の講師、現場の先生の研修の受け入れなどを行い、大変ではあるが使命を果たしていると思う」という意見が多かった。ソニー教育財団から「優秀園」に選ばれたことは使命を果たしている現れでもある。「公開研究会はある程度、参加人数も増え定着してきたので、裾野を広げるために何か新しいことを考えてもいい時期になってきたのでは」とさらなる工夫をするべきだという意見もあった。また、一方で「附属間の連携・大学との連携が弱い」という意見もあり課題であるとする。
- 教育実習については、多様な学生を受け入れるようになり、負担が大きくなっているため大学との連携の必要性があげられた。
- 工学部や教育学部美術科との連携はしているが、もっと幅広い教室の先生方と連携していけたらよいという意見があった。
- 自己の指導力の向上については、「さらに質が上がるように努力したい」と考える教員が多かった。

## 2.学校評価アンケートにもとづく自己評価

### ◆学校の運営及び園務の遂行

#### ○園の教育目標や方針

- ・今年度は関附連千葉大会があったため2学期にふれあいの日(参観日)に行っている保護者向けの研究発表ができなかったため、2月のふれあいの日に研究発表を行う予定でいた。しかし新型コロナウイルス感染症の流行により中止になってしまった。新年度に保護者向けの研究発表を具体的な子供の姿が分かるような形で行う予定である。

#### ○建物や設備

- ・建物や設備の老朽化に関しては、限られた予算の中で、少しずつでも改善しようと努めている。
- ・今年度は大きな台風が直撃した。今回は実習中で実習生がいたため、保護者に手伝ってもらわずにすんだが、保護者に手伝ってもらうこともあるかもしれない。
- ・職員は、毎学期、チェック表を用いながら安全点検を行っており、現状維持で我慢するところ、用務員に直してもらうところ、業者に頼むところに分類し、必要なところ、緊急を要するところは、学部を通して大学の施設課に要望している(樹木の手入れ、園庭の排水設備、3・4・5歳児の保育室の天井・窓枠・テラスのひび割れ、保育室のエアコンなど)。今年度、エアコンに関しては雪組と空組は新調し、春休みに星組、来年度に月組を新調予定。さらに、保育室の天井の張り替えと照明器具の交換を予定している。また、通路の屋根はつけ終えることができ、雨の日の移動がしやすくなった。
- ・集会室横から通用門へ行くところの土が滑るという意見があったため、業者と相談中。
- ・集会室の靴箱から金具が飛び出していたりして危ないというご意見があったが、春休みに撤去予定。スリッパは、入れ物にまとめて入れるようにしたいと考えている。

#### ○遊具

- ・総合遊具「夢の城」については、危険性やメンテナンスを心配する声があったが、定期的にメンテナンスを行っている。

## ○避難訓練

- ・避難訓練が多すぎて子供たちの時間を圧迫しているという意見もあったが、大きな地震が来ることを想定し、1ヶ月に1度程度の今のペースは崩さずに行いたい。
- ・避難訓練については「園生活のしおり」の中に詳しく書いていますが、保護者の方に理解が浸透していないため、来年度初めの保護者が集まる際に、一度口頭でお話しする機会をもちたい。また、防災倉庫の中を公開してほしいという要望もあったので、そのような機会ももちたい。
- ・気象警報が発令されている場合、附属小学校と対応を合わせてほしいという意見もあったが、兄弟が附属小学校に通っている家庭だけではないことや、年齢、通園区域、保護者が一緒かどうかなど様々な条件が違うことなどから、対応は合わせるのは難しい。

## ○PTAの活動

- ・PTAの活動は、効率よく、活動ができるようにと考えている。以前は年に8回あった役員会を昨年度は7回、今年度は6回にした。また来年度から、PTAのパソコンを一台増やし、仕事がしやすいようにする予定。
- ・園庭整備は園からの依頼であることを明確にし、環境整備委員会の負担を軽くする。

## ◆本園の保育について

### ○保育

- ・保育については、本園の取り組みを理解して、高く評価して下さった保護者が多かった。

### ○保健

- ・視力検査の結果から病院を探す際、情報がほしいという声があったので、「ちば医療ナビ」HP内から検索できることを伝えた。また、身長測定希望者は保健室で個別に測定することも伝える。

## ◆子育て支援について

### ○子育て支援

- ・保育参加は、「事後のフィードバックがあればいい」という意見があったが、時間がとれないため、感想を提出してもらうことになっている。知りたいことや疑問点については、声かけ手くれるように伝えた。また、子供たちの前で何かしなくてはいけないと思ひ、参加しにくくなっているという声も聞くため、その必要は無いことを伝えた。

## ◆国立大学教員養成系学部附属幼稚園としての社会的使命について

### ○社会的使命

- ・今年度はソニー教育財団から、「優秀園」に選定してもらうなど、助成が出る研究もしている。今後も積極的にそのような取り組みにも参加していきたい。

### ○大学との連携

- ・工学部との連携を中心に非常に良い評価をもらっている。大学都の連携は附属であることは大きな特徴でもあるので、双方にメリットのあるような連携を今後も考えていきたい。